

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



<http://japan-ecoleather.jp>

はやし くによ  
**林 州代氏**

(株式会社村瀬鞆行 代表取締役社長)

**吉村 圭司氏**

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

**稲次 俊敬氏**

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)



ショールームにある上の社名額は書家の金子鶴亭氏による

ランドセルと  
学生鞆を製造

**吉村** 今月号は名古屋のランドセルメーカー、株式会社村瀬鞆行の林州代社長にご登場いただきまし

優れた技能でつくる国産ランドセルを  
“日本の文化”として大切にしたい

た。社名は“むらせかばんこう”と読むとのことで、大変ユニークです。まず、社名のいきさつや社歴からお話しいただけますか。

**林** 創業が1957年で、今年で62年目になります。創業時は同じ字で“むらせほうこう”と名乗っていました。初代の村瀬辰次が名付けたもので、“〇〇鞆店”というのはどこにもある、個性的な社名にというのが命名の由来です。

中国では店のことを“商行”と書き、“行”には“広がる”という意味があるそうです。ただ、なかなか“むらせほうこう”とは読んでもらえず、“むらせかばんこう”という読み方に落ち着きました。

**吉村** 創業当時からランドセルをつくっていたのでしょうか。



村瀬鞆行の工場

**林** 当初は鞆の製造卸として、ランドセルと一般の紳士鞆やポーチを製造し、量販店などに卸していました。そのうちに一本手の学生鞆も加わり、当時はランドセルと同じほどの数が売れていました。それが30年ほど前に、ツメ襟や



吉村氏



林氏

### 優秀な職人の元で修行し 技術継承を図る

セーラー服という制服がジャケットやブレザーに替わっていき、学生靴も学校別注となり、制服に合わせたデザインが求められるようになり、そのため、当社も私立校の学校別注で、おしゃれなデザインの3ウェイバッグなどを提案するようになりました。

**吉村** 名古屋には、ランドセルメーカーが多いようですが、何か背景があるのでしょうか。

**林** 現在、私が会長を務める(一社)日本靴協会ランドセル工業会には、全国の36社のメーカーが所属しています。このうち12社が名古屋の会社です。

江戸時代、この地区は徳川家のお膝元で城下町には馬具職人が点在しており、それが転じてランドセルや学生靴に繋がったようです。ランドセルや学生靴は、毎年必ず購入される人がおり、その数もほぼ一定しています。小学1年生に上がる生徒数はおよそ100万人です。このうちの90万人が買わ

れます。その90万个を36社で分け合っている状態です。ですから市場は景気動向にあまり左右されないという業界です。

**稲次** 最近はこの業界にも後継者問題がありますが、ランドセルメーカーではいかがでしょうか。

**林** 実は当社でも3年前に80歳になる職人さんが辞めたい、と言いつ出したことがあります。ランドセルの製作技術で賞を何度も取るなど、大変優れた技能を持っている人です。そこで、一番若い25歳の従業員を弟子入りさせてもらい、3年間、職人宅で修行させました。



すべて手縫いにこだわる

彼が手縫いの技術などを習得すると、その技術を今度は他の社員に教えるというように技術の継承に取り組んで来ました。

若い人たちには、日本皮革産業連合会が毎年実施している靴・ハンドバッグ・小物技術認定(皮革部門)試験を受けさせています。2級以上は大変難しいもので、現状では3級と2級には合格しており、1級を取る事が次の目標になっています。

**吉村** 品質基準のようなものはありませんか。

**林** ランドセルには特に品質基準はありませんが、靴については「村瀬基準」というものがあります。これは靴が出来上がると、中に20kgのおもりを入れて一日中吊り下げておきます。この試験で大丈夫だったら合格としています。

丈夫なランドセルを作るために、素材や構造のほかに手縫いにもこだわっています。背面のヘリの部分などは左右両方向から糸を通し、糸が交差するときに8の字に絡めて締め上げます。こうすると糸が革の繊維の中で絡むので糸が切れ



稲次氏



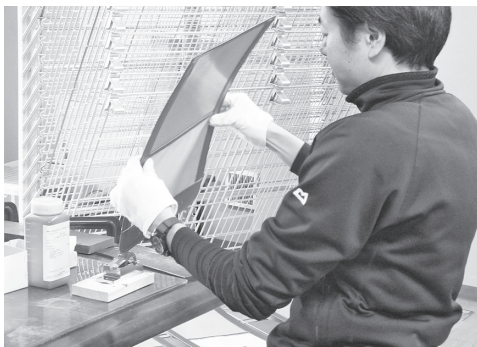
林氏

にくく、たとえ切れてもミシン縫いとは違って、糸がほつれることはありません。

### 日本製ランドセルは6年間修理できる

**吉村** 最近カラーバリエーションが増え、人気のカラーが毎年変わるなど、ランドセルも黒と赤だけでは対応できなくなっているようですが、現状でのランドセルメーカーの課題はありますか。

**林** 革のランドセルは「重さ」がマスコミでもよく取り上げられます。しかし、実際はランドセルが重い



カプセルのコバ塗りは複数回を繰り返す

のではなく、教科書など中身が重いのですね。このことは工業会のホームページでもアピールしていきます。

また、文部科学省では今後は「置き勉」を認めるように通知を出しました。大変良いことですので、ランドセル工業会としての統一見解も近々、ホームページで発表します。

**稲次** 重さと丈夫さは反比例する面があり、いろんな箇所に補強材を使って丈夫な革製ランドセルを作ろうとすれば、それなりの重さになるのでしょうか。

**林** 最近のランドセルは肩ベルト位置が立ち上がる構造になっており、背負ったときに背中にピツタリとフィットするようになっています。これだけでも体感重量は軽く感じます。こういうことも消費者には知ってもらいたいですね。

**稲次** 日本独自の技術でつくられてきたランドセルですが、最近海外生産の安い商品も相当出回っています。

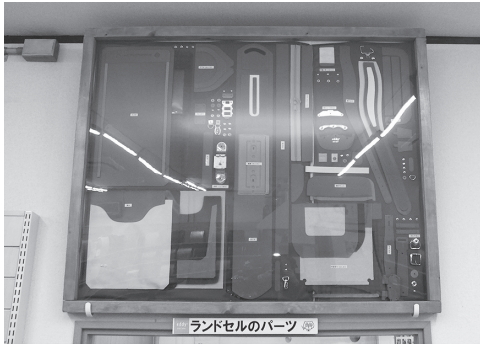


職人へ弟子入りした伊藤辰雄さん。右は6年間修理対応の認定証「桜マーク」

**林** 工業会としてのもう一つの課題はその対策です。輸入ランドセルも外観はかなり良くなってきましたが、素材・金具・補強材などは国産とは全く別物で、6年間の使用に耐えられないようなものもあります。

2015年から海外製品に対抗するため、従来の6年間保証のタグを「桜マーク」のランドセル認定書に変更し、国産であれば、6年間修理対応ができるように謳っています。

今「ラン活」という言葉があります。年長の児童のいるお母さん方は、ランドセルを買ったためにカタログを集め、インターネットで調



ランドセルのパーツを壁にディスプレイ



最上位のコードバンランドセル

べ、売場にも何回も見に行つて、子供に一番のものを買い与えます。そのことをラン活と呼んでいるのですが、それほどランドセルに対する親御さんたちの関心は高く、その購入には慎重になっています。

### 安心・安全の保証の証に 日本エコレザーも有効

**稲次** 当協会からの提案ですが、6年間保証に加えて「安心・安全な革を使っています」というアピールをさせてはいかがでしょうか。

日本エコレザーの認定制度では、世界標準を参考に基準を設定し、革中の有害化学物質の検査に適合したものを認定しています。安心・安全はブランド力にもなるので、桜マークに加えて日本エコレザー基準認定マークも付けられたら良いかと思えます。

**林** いいアイデアですね。当社の仕入先のタンナーでも日本エコレザーの認定を取得していますが、革がエコレザーであれば、製品も認定されるのでしょうか。

**稲次** 認定の取れている革を使うものなら、製品でも申請手続きを行えば認定されます。

今使っている革で検査をされたらいかがでしょうか。もし不適合な項目があったとしても、タンナーさんですぐに改善して頂けると思えます。

**吉村** 現在、革で約500件、製品で約250件が日本エコレザーに認定されています。

御社が、日本エコレザー基準の認定を取得した革を納品してください、と依頼すれば、タンナーさんも継続的な取引につながるとして、協力してくれるのではないのでしょうか。



大人のランドセルも開発。写真は紳士用

**稲次** エコレザー使用で好評な製

品に、赤ちゃんのファーストシューズがあります。これもおじいちゃん、おばあちゃんがプレゼントとして購入する傾向のものですが、安心・安全な革を使っていることが購入時の大きな判断材料になっています。

ランドセルでも安心・安全な革を使うことは、有効ではないでしょうか。

**林** そうですね。おじいちゃんやおばあちゃんはお孫さんに贈りたくてしようがないみたいです。ね。贈られたお父さんやお母さんはもちろん子供さんも、みんなを笑顔にさせるのがランドセルです。

私たちは、このようなご家族皆様を幸せに、笑顔にすることができる仕事に携わっていることを誇りに思っています。

子供にとっては一生に一回しか買ってもらえないもので、ありがたいの感謝とともに6年間大切に使うということも教育の一環です。

こういったランドセルが持つ「日本の文化」は、これからも大切にしたいですね。